

# ブラキムラとめぐる！ 仙台城下町ボヤージュ 【2026年9月1日放送分 保春院前丁／一本杉】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 前回ご紹介した若林区榊木通の辻標(町内会による設置)とほぼ直交する南北の通り「西新丁」を南下して行きます。  
300mほど東を並行して走る「東新丁」とともに、保春院という寺が寛永12年(1635)に創設されてから境内の東西に新しく割り出された街です。

- 西新丁を南へ進むと、県道荒井荒町線との交差点があります。東西方向(荒井荒町線)が少し鉤型になった変則的な交差点で、かつての保春院の広大な境内を避けるために、こうした形になりました。筋違いの道同士をつないでできた三角形の空き地は公園となり、地元では「三角公園」と呼ばれ親しまれました。  
「三角公園」は平成中期まで存在したようですが、今では御影石のモニュメントにその名残をとどめるのみです。

- 私と木村さんは、若林区役所北側の保春院へ。政宗公が母・義姫の十三回忌にあたって創建した寺で、義姫の法名から寺の名がとられました。本堂には義姫と、政宗公の父・輝宗ご夫妻の位牌が置かれています。また、日米修好通商条約の使節として渡米した幕末の英傑・玉蟲佐太夫の墓があり、面影を偲ぶことができます。



- 今月の辻標は「保春院前丁／一本杉」。若林区役所の北側にあります。区役所の東側、現在の聖ウルスラ学院の敷地にかつて伊達家の邸宅があり、樹齢数百年という杉の老木が遠くからでも目印になっていたそうです。この邸宅は仙台市の文化財に指定され、現在は「鍾景閣」として青葉区茂庭に移築・保存されています。

〈文・佐々木淳吾〉

